

第22回

さいたま市外国人による 日本語スピーチ大会

～さいたまに来て、見て、感じて～

CONTENTS

- ① イベント
- ② コラム
- ③ ご案内

第22回さいたま市外国人による日本語スピーチ大会

主催：公益社団法人さいたま観光国際協会 共催：さいたま市 公益財団法人さいたま市文化振興事業団



テーマ 不思議だなぁ!?

令和6年2月3日(土)、浦和コミュニティーセンターで第22回さいたま市外国人による日本語スピーチ大会を開催しました。今回は7つの国と地域から10人が参加しました。

この大会は日本語を学んでいる外国人市民が日常の中で、感じたことや考えたことを発表する機会を設け、さいたま市民が外国人市民の視点や考え方に触れることで、相互理解と交流を深め、多文化共生社会の推進を図ることを目的としています。

今年のテーマは「不思議だなぁ!？」です。最優秀賞を受賞したミャンマーのチッターテーさんは当初、日本人が直截的^{ちよくせつ}ではなく、遠回しな言い方をするのを「不思議だなぁ!？」と感じていました。ところがその後、遠回しな言い方は相手を気遣う日本人の思いやりにあふれた優しさだと気づきました。これからは、自分も思いやりを大切に過ごしていきたいと熱弁をふるわれました。そのほかの発表者もそれぞれ素晴らしく、聴衆は感動の渦に巻き込まれました。さいたま市で、頑張っている発表者のエネルギーが会場全体を包み込んでいるようでした。

スピーチに耳を傾ける観客の皆さん

最優秀賞



チッターテーさん
(ミャンマー)

優秀賞



エディリシンヘ タモーディヤさん
(スリランカ)

実行
委員長賞



チャン ハー チャンさん
(ベトナム)

第22回さいたま市外国人による日本語スピーチ大会

主催：公益社団法人さいたま観光国際協会 共催：さいたま市 公益財団法人さいたま市文化振興事業団



来賓・審査員・司会者と甲乙付け難かった今年の参加者の10名の皆さん

MY ボランティア STORY



2016年12月の「みんなでおしゃべり会」(本人右)

多くの事業で活躍されている土居眞澄さんのお話です。

国際交流センターとの出会いは16年前の秋でした。新しく開設されたコナナーレ9階を訪れ会場を一巡したとき、ふと南西の一角に国際交流センター「ぶらっとサロン」が目に入りました。入口に活動を紹介するチラシがあり、眺めていると「おしゃべりサロン」の「ある言語」のチラシが目に入りました。



2017年11月の「中国語おしゃべりサロン」(本人中央)

留まりました。何か楽しそうと思い一度参加してみよう、面白くなければ一度限りという気持ちで参加しました。それが意外と楽しく、以後毎

回参加して2～3年の月日が流れました。そのころボランティア委員の方から、一緒にスタッフとして活動しませんかと声がかかりました。それを機会に「おしゃべりサロン」を中心に「はじめましての会」、「日本語国際センター交流会」等の事業に関わりました。国際交流センターの方々ととの二人三脚で自主運営しているこれらの事業活動は、居心地よくボランティアがのびのびと活動できる環境にあり、月日は水が流れるように過ぎ去りました。一番の思い出はコロナ禍において「おしゃべりサロン」をどのように継続して開催できるかを事業スタッフ及び国際交流センターの方々と共に考え、この困難を乗り越えたことです。



2023年10月の「はじめましての会」(後列5人目中央)

2024年 着物着付け体験会

1月7日(日)「着物着付け体験会」を氷川の杜文化館で開催しました。今年も人気が高く11カ国18名(男性3名)の外国人が参加しました。着付けをしてもらったあと、武蔵一宮氷川神社の初詣に出発。今年の干支の辰は特に外国人の間で「ドラゴン」として人気があり、「干支絵馬」の前での写真撮影は、長い列ができるほどでした。参加したギリシャ人の女性は、さいたま市のPRキャラクター「つなが竜ヌウ」*1のことも知っていました。「ヌウ」はドラゴンの仲間とは知りませんでしたが、「それこそさいたま市にとっては、すばらしい辰年になるでしょう」とうれしい回答をしてくれました。

初詣のあとは、茶道、風呂敷の包み方の文化体験、最後に全体写真を撮影し、すばらしい新年のスタートとなりました。

日本最大規模を誇る都心緑地空間「見沼田んぼ」の主の子孫。生まれ育った見沼(ミヌマ)から「ヌウ」と名づけました。ヌウ=nuuにはフランス語で「飾り気のない」「素」の意味があります。「つなが竜(りゅう)」には、さいたま市の魅力を伝え、人々の「つながり」を深める役割を担う意味がこめられています。



干支絵馬の前で



風呂敷の包み方体験



スタッフも入って全体写真



2023

写真で振り返る 国際交流センターの 一年



IEC NEWSでお伝えしきれなかった国際交流、
講座、ボランティアさんの様子です！



海外姉妹都市とのオンラインや対面で国際交流

さいたま市の外国人の皆さんとの交流



IEC NEWSで
全てご紹介できないほどの
国際交流イベント、講座をボランティアの
皆さんと共に開催しました！
来年度も皆様のご参加を
お待ちしております。



講座で今まで知らなかった新しい発見！

ボランティアの皆さんいつもありがとうございます



二講座

✈️>>>「イスラムを知ろう 住んでみて見えた真実の姿」

2回連続シリーズの1回目



ぎっしり満員の講座風景

1月27日、ぷらっとサロンで開催しました。講師は、金子貴一氏。カイロ・アメリカン大学(文化人類学科卒)の4年間を含め1988年までの8年間、エジプトに住む。得意のアラビア語や英語を生かして日本のテレビ支局員や自衛隊イラク派遣部隊で通訳などの任に当たる。訪問国と地域が約120。異文化間コーディネーターとしてご活躍中。イスラム世界との交流40年もの体験に基づき、戒律の厳しいイスラム社会生活を内側から生々しく捉えたお話でした。



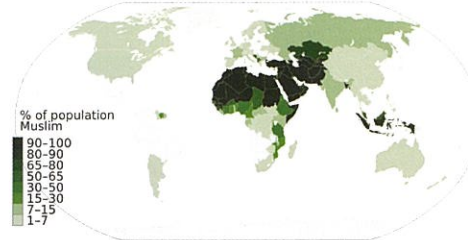
金子 貴一氏



80億の世界人口のうち、約1/4はイスラム教徒。ご本人の住まいの近くで起きた約43年前の大統領暗殺事件の状況。時間感覚の違い。結婚について(いとこ同士の結婚が理想)。仕事観はトップとボトムの直接対話。利息でなく出資の配当で受け取る。など、たくさんのテーマの講義がされました。最後のQ&Aでは、食のプレゼントについて(ハラール/ハラムがあるので避ける)、仏教の見方について(仏教は哲学)、時代とともに変るイスラム法、イスラム教徒と仲良くなる方法、握手やハグの注意点など。熱心に聞き入る聴講者で満員の、ホットなテーマ満載の講座でした。



ムスリム(イスラム教徒の意)国別人口比率世界地図



出典: Wikipedia 英語版



「国際友好フェア2024」 開催予告！！

- 日時●2024年5月3日(金・祝) 4日(土・祝)
9:00～16:00(4日は15:00まで)
- 場所●市民の森・見沼グリーンセンター
(J R土呂駅から徒歩8分)
- 内容●市民国際交流活動団体による活動内容紹介、民族料理・各国物産品の紹介・展示・販売、ステージイベント、海外姉妹・友好都市の紹介など



編集後記



静かに出て
真新しい花
沢山の
色も運びて
寒き風

日の出が一日一日早くなり、朝の空気も春。そして、待ちに待った桜のもと今年は賑やかな花見が行われている日々感謝しています。

ここ数年、十分なボランティア活動が行われず残念でしたが、2024年は今まで行えなかった分を取り戻し、平常にボランティア活動が行われ、活気あふれる声が響き渡ることを期待します。



公益社団法人 さいたま観光国際協会 国際交流センター

Saitama Tourism and International Relations Bureau (STIB)
International Exchange Center (IEC)

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9F (JR浦和駅東口 浦和パルク上)

TEL 048-813-8500 FAX 048-887-1505

E-mail iec@stib.jp URL <https://www.stib.jp/kokusai/index.shtml>

